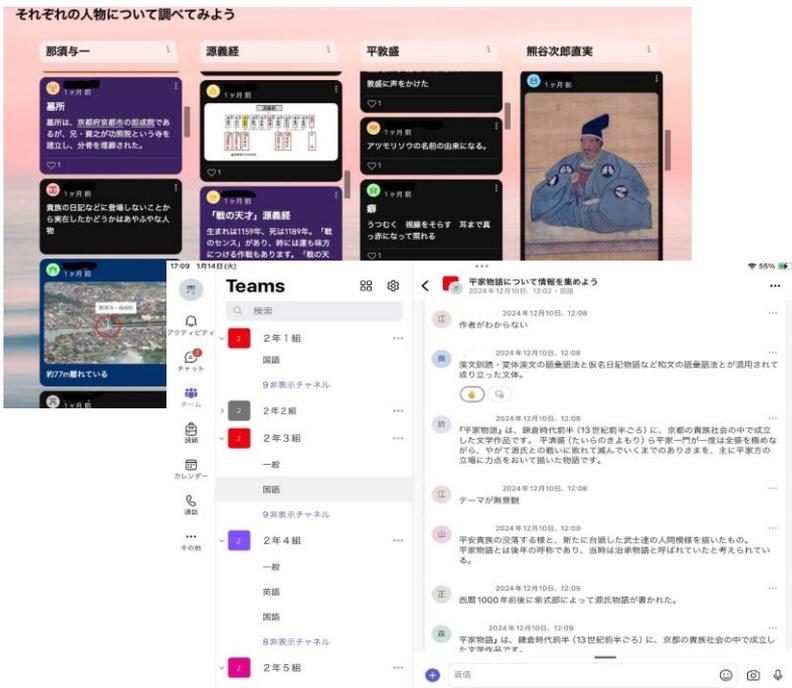


【取組内容】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実



(1) Teams等で情報収集

情報収集は個人作業であるが、他の人がどのようなことを調べているのか知ることによって、何を調べたら良いのかわからない生徒も参考にできる。他の人の調べた情報も自分の材料として、活用できる。

(2) ジグソー法で協働学習

ジグソー活動をすることにより、一人ひとりが役割を与えられ、自分の担当部分に責任を持って取り組める。エキスパートのグループで活動することにより、同じことを調べている人と協力し合って取り組むことができる。また自分の班に戻ったときに、エキスパートのグループで共有して考えてきたことなので、自信を持って伝えることができる。伝える手段としてタブレットを活用することで視覚的な表現ができるので伝わりやすい。

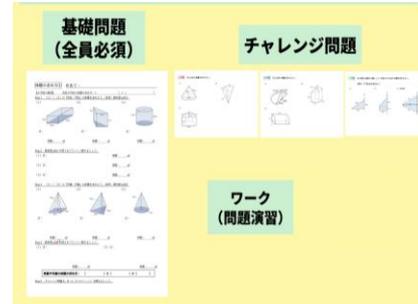
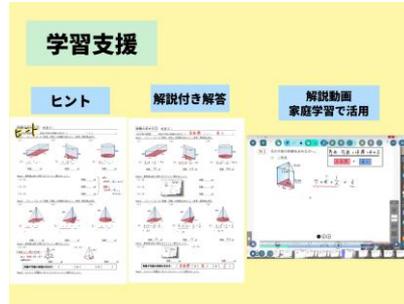
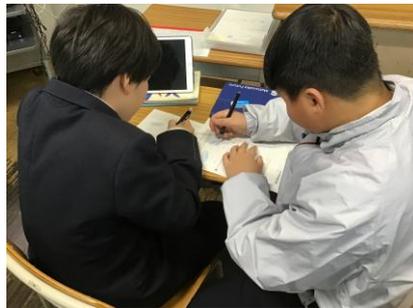
一人でも欠けるとたどりつけない課題を与えることによって、みんなで協働する学習になり、深い学びができる。

ICTは思考を深めるツールとして活用し、人とのつながりで学びを深めることのできる協働学習によって、集団の中で個が埋没し、置き去りにされない環境が生まれる実践となった。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

松阪市立三雲中学校（三重県）

【取組内容】 クラウド環境を活用した、子どもが主体的に学ぶ個別最適な学びの実践

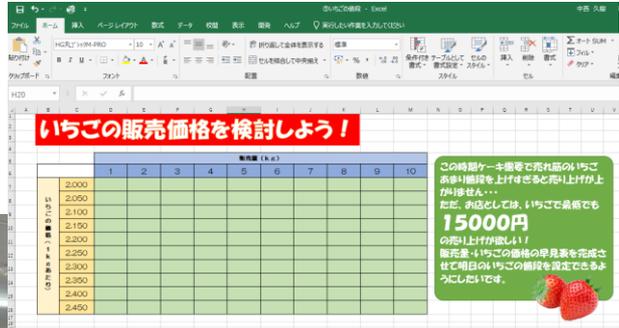


1年生数学「空間図形」の単元における学習場面である。生徒は、デジタル教科書やワーク、インターネット、タブレット、ノートなど様々な道具を使い、情報収集と本時の課題に主体的に取り組んでいる。学習形態も個々で考え、個人やペア、グループなど自分にあったものを選択している。それぞれのペースで学習を進め、基本プリントやチャレンジ問題、ワークなどを通して、思考力や基礎的な力の定着を図っている。また、クラウド環境を活用し、個々の考えをチャット機能で全体共有できるようにしている。それらの意見をヒントとしながら学習を進める生徒も多いる。このような授業実践より、教員は支援を必要とする生徒へ寄り添う時間が増えた。また、1人ひとりの学習状況をこれまで以上に把握できるようになり、生徒の実態に応じた指導や授業改善へとつなげている。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

松阪市立三雲中学校（三重県）

【取組内容】クラウド環境を利用した「協働学習」と「主体的な学び」の実践



【協働学習の充実を目指して】

課題に対し、自由に話し合える環境でお互いに相談しながら解法を求めていく授業形態を実践している。またTeamsのチャット機能を利用し、自分で設定した「めあて」や、「解法のヒント」「分からないこと」を共有することで、「協働的な学び」に「ICT」を活用してきた。「授業まとめ」を共有することで「他者参照」しながら課題解決につなげることもできた。

【主体的に学ぶ課題づくり】

課題の難易度を徐々に高くしていくことで、既習の知識を使いながら「難しい課題を解いてみたい」「自分で調べて解きたい」という学習意欲の高まりがみられた。課題のテーマも「人口密度」「消費税の計算」「シュートコンテスト」など、身近なものを取り入れることで、実生活とのつながりを意識し、より主体的で意欲的に取り組もうとする姿がみられた。